



喜多塔

檀林皇后 立后一千二百年

弘仁六年(八一五)七月十三日。当宮御本社のご祭神であらされる嵯峨天皇さまの夫人・橘嘉智子さまが、この日、正式に皇后に立ててから今月で一千二百年となります。

皇后さまの檀林という追号は、承和年間に現在の嵐山 天竜寺のあたりに檀林寺という日本最初の禅院を建立された事に由来します。

『文徳天皇実録』によれば、檀林皇后さまは「風容絶異、手は膝に過ぎ、髪は地に委がう、観る者皆驚く」とあり、大変容姿に優れた方であられたようで、ちょうど当今の皇后陛下のご成婚された当初のミッチーブームに通じるものがあるのかもしれませんが。そして嵯峨天皇さまとの間柄も残されている和歌から察するに大変仲睦まじい間であられたようです。

檀林皇后さまは文化の興隆にも熱心で、自身の出自である橘氏の氏神さま、梅宮大社で雅楽を奉納され、一説にはこれが神前で雅楽を奉納した初例ともいわれています。

また死生観にも独自の信念をお持ちで、嵯峨天皇さまと同じく薄葬を望まれ、世の無常を表す九相図などが知られています。

ちなみに、檀林皇后さまの御生母であられる田口氏女(通称 田口姫)は、現在の大阪府枚方市の出身といわれ、檀林皇后さまは大阪とのご縁も感じる皇后さまともいえます。

立后一千二百年の今年、改めて平安の国母たる檀林皇后さまの御事跡に思い致し、時の皇后陛下の思いがその時代の慈愛の源流である事を畏まずにはいられません。

遣梅式

本年も七月二十四日午前十一時より、当宮と大阪天満宮と天神祭を通じて縁ある神事、「遣梅式」を斎行致します。

この神事は天神さまの霊木として知られる当宮御旅社の紅梅の枝(梅ヶ枝)を、大阪天満宮の神童に授け遣わす神事で、梅ヶ枝を遣わすので遣梅式の名があります。

神童は授けられた梅ヶ枝を大阪天満宮に持ち帰り、それに天神さまの御神霊をお遷しして、天神祭が斎行されます。いわば、日本三大祭りの一つである天神祭の根幹に関わる神事ともいえ、網敷天神社の梅が天神信仰において大変重要なものである証ともいえます。

この遣梅式の執り行われる前後一時間ほど、神事の都合上、御旅社の参拝は階下までとなります事、何とぞご了承下さいませ。

梅田ゆかた祭

七月十八、十九日の両日、茶屋町、大阪駅、グランフロント大阪、ディアモール大阪の四会場で「梅田ゆかた祭」が開催されます。

茶屋町では両日とも午後四時から打ち水イベントが行われる予定で、日本古来の涼のとり方を実施し、また、グランフロント大阪のうめきた広場では盆踊りもあり小粋な街あそびが展開されるそうです。この両日はゆかたで梅田を楽しみましょう。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀 知

